

玉垂

たまだれ
No.40



節分祭奉仕の皆様（平成26年2月3日）

<http://www.okunijinja.or.jp>

春気の中で

弥生三月になりましても、全国各地では記録的な降雪や季節はずれの大雨等があり、天候の不順が続いております。今年はこの先どうなるのかと気掛かりです。氏子崇敬者の皆様方には、ご健勝にてお過ごしのことと存じます。

さて、東日本大震災より三年が経ちました。震災と津波で被災された皆様、またご家族、ご親族の皆様方に改めて心よりお見舞いを申し上げます。今も仮設住宅に暮らしている被災者がまだ半数以上おられる現実があります。根本的な生活再建は遅々として進んでいない状況ですが、決して心の絆は切れることはありません。それぞれの立場におきまして、様々な形での被災地の再生復興に向けた支援を、前向きに見直して実行する時期であると存じます。

三月二十九日（土）午後三時、新東名にある森町パーキングエリア内に遠州森町スマートインターチェンジが開通いたします。地元森町には新東名で二つ目の玄関口となり、当社まで約五分となります。大型バス等の全長十二メートル以下でETC車載機を付けた車輛であれば、上下線全方向に終日利用することが出来ますので、ご参拝の折にどうぞご活用ください。また、新東名開通を契機として発足した「明神通り振興会」では、この機会に活発な活動を展開し、参拝者を丁寧に対応するとともに地域の振興に努めています。

ところで、冬季のソチオリンピック・パラリンピックでは、選手の直向きな努力と成し遂げた時の笑顔と涙に感動しました。夢や希望を頂き、明日への活力となりました。開催が決定している東京オリンピックでも日本人らしい心からの「おもてなし」によって、各国の選手が大いに発憤し活躍して頂きたいものです。暖かくなりますと境内の「しゃが」の花が咲き、樹木の新芽が吹いてまいります。当社にとって最も爽やかな季節となります。是非、皆様方のご参拝をお待ちいたしております。



参加者で賑わう参道（1月3日）



平成26年「午」（製作 鈴木格子氏）

年末年始のご報告



門前の大絵馬（12月27日）



本宮山例祭のたき火（1月6日）



元旦夜間の参拝（1月1日）



御弓始神事の地射手奉仕（1月17日）



どんど焼き祭の斎行（1月19日）

節分祭の齋行

二月三日(月)午後二時より節分祭を齋行いたしました。

本年も年男女役一〇〇名とともに、浜松出身で俳優の寛利夫さんをお招きし、年男役として特別にご奉仕いただきました。

当日は天候にも恵まれ、大紋を身にまとわれた寛さんは、殿内にて宮司以下神職巫女年役の方々と共に追儺(ういな)神事や豆撒き神事に続き、年男役・年女役の弥栄を祈願する宝槌(たまづき)打振(うちぶ)神事、大声で笑い厄災を祓う福笑い神事をご奉仕なさいました。

また神事後の舞殿においての豆撒きでは、「東北震災復興」と出演作品であります実写版「機動警察パトレイバー」のヒット祈願をしたお手製の俵



節分祭特別奉仕者 俳優 寛 利夫氏 (2月3日)



節分祭「鳴弦式」(2月3日)

餅が撒かれました。寛さんの姿を一目見ようという方や福を求めめる方など大勢の参拝者にて賑わう中、本年の節分祭は無事滞りなく齋行されました。寛さんの更なるご活躍に期待いたします。

師走の大被式齋行

十二月三十一日大晦日の午後三時より師走の大被式が齋行されました。

大被式は日常生活の中で知らず知らずのうちに心や体についた罪やけがれを、身代わりとなる人形に託し、川に流して抜い清める日本古来の伝統神事です。当日は氏子内外より多くの方が参列され、神職とともにお抜いを受け、清く正しい身に立ち返り、良い新年を迎えられるようお願い申し上げます。

また、来る六月三十日には境内に設けられました「茅輪」をくぐる、夏越の大被式が齋行されます。

当日はお抜いをご一緒にお受けいただけますので、是非ともご参列いただきますようご案内申し上げます。



師走の大被式 (12月31日)

田遊び祭・田遊び神事

正月三日には「国選択無形民俗文化財」に指定されており、田遊び祭「田遊び神事」が齋行されました。まず田遊び祭が拝殿で齋行され、その後奉仕者の方々が舞殿にて田遊び神事を行いました。

田遊び神事は、一番の「素歌(しろくわ)」から始まり十二番の「歌おろし」まで、田植前の田作りから秋の稲の刈入れまでを模したものとなっております。鎌倉時代頃から続いているといわれています。旧社家の方々が白丁に身を包み太鼓を中心にして田唄を歌ったり、太鼓に両手を置いて牛の真似をしたりして、模擬的に演じます。

神事後は神札の授与や餅投げなどが行われ、投げられる餅に参拝者からは歓声がありました。



田遊び神事「苗草蒔き」(1月3日)

紀元祭の齋行

皇紀二六七四年二月十一日、日本の建国を祝う紀元祭が齋行されました。この日は神武天皇が初代天皇としてご即位なされた日であり、「建国記念の日」の祝日として日本各地で催しが行われています。当社では恒例の奉祝パレードを実施いたしました。当日は晴天に恵まれ、氏子内三地区を出発した子ども会を中心とする多くのパレード参加者は、国旗や手旗を振り、元氣よく神社へ向かって行進しました。

紀元祭齋行後、境内では奉祝式典を実施いたしました。国歌、紀元節の歌を参加者全員にて斉唱し、祭典からご参列いただきました森町長村松藤雄様を始め、来賓の皆様よりご祝辞を賜りました。

甘酒の授与や氏子青年会の奉仕による餅つきやビンゴゲームが催され、建国の日をお祝いいたしました



奉祝式典にて檀原神宮の遙拝 (2月11日)

祈年祭の齋行

二月十八日午前十時、責任役員様を始め氏子崇敬者七十余名のご参列のもと、祈年祭を厳肅に齋行いたしました。祈年祭は、「としごいのまつり」と言われ、当社の恒例祭典の中で重要な祭儀の一つです。

古来、日本の国は稲作を中心とする農業をもとに栄えてきました。祈年祭の「年」は稲の実りの意味で、年の初めにあたり、穀物の豊穰を祈ると共に、皇室、国家国民の安泰を祈る祭りが行われてきました。

古くは平安時代中期に編纂された「延喜式」にもその記述があります。近年は、諸産業の繁栄を祈る祭りとして今日に至っています。

収穫の秋に豊かに稔った新穀を神前に供え、神々の恵みに感謝する新嘗祭と対をなす祭りです。

このふたつの大きな祭典は、毎年欠かさずことなく宮中を始め伊勢の神宮そして全国の神社で執り行われています。



祈年祭の参進 (2月18日)

初甲子祭の齋行

初甲子祭は寒明け後初めての甲子の日に執り行われ、今年も二月二十二日の齋行となりました。甲子は六十日で一巡する日ごとに振られた十干十二支の最初の干支で、大国様が国土経営を始められた日ともいわれ、事始めの意味が込められた日とされています。

また「甲子ぎのえね」の「子(ね)」は大国様の危機を救った鼠に結びつけられている日でもあり、ご縁の深い日となっております。

初甲子祭では商売繁盛・交通安全・家内安全・無病息災・厄除けなどのご祈禱をいたしております。甲子講の講員や崇敬者の方々はご祈禱を受けられた後、金幣を受け神職より受け取った御幣を持って本殿の周りを歩き、普段より近くでお参りされます。また、この日のみに授与しております杉の葉に紙垂をつけた「無事杉」を受けられ参拝を終えられます。

その後、大宝殿での直会や、福引を引かれるなど、このご縁日を楽しまれました。



初甲子祭にて御本殿階下のお参り (2月22日)

遠州とこわか塾開催のご報告

二月二十三日(日)「遠州とこわか塾」第四期第三回目が開催されました。今回はDVD「天皇陛下 傘寿を迎えになつて」を鑑賞し、天皇陛下の八十年間のお歩みを時代背景とあわせて振り返りました。ご即位から宮中における祭祀・公務、またご日常など普段はなかなか知り得ないこともありました。そこからうかがえるのは、常に国民のため、世界平和のために祈りを捧げておられるお姿でした。

殊に、近年は大きな自然災害等が頻繁に起こり、甚大な被害が相次いでいます。両陛下におかれましては強くお心をお痛めになりながらも、その都度被災した国民が、地域が一日も早く回復し、復興するようご祈念され、現地をお訪ねになるお姿は周知の通りであります。

このようなお姿を仰ぎつつ、これからも平成の御代が平穏であるとともに、皇室の弥栄を祈念いたします。

また、今回は冒頭に当塾の塾生であります衆議院議員の宮澤博行氏より国政報告をしていただきました。



遠州とこわか塾第1期生の宮澤博行衆議院議員 (2月23日)

氏子青年会結成四十周年記念

小國神社氏子青年会が結成されて、今年で四十周年を迎えました。

去る、二月十六日に結成四十周年記念行事といたしまして、ご来賓の静岡県氏子青年協議会会長竹内栄哉様・森町議会議長柳原淑友様を始め、小國神社責任役員・当社関係団体・歴代OB・県内各地区氏子青年会の皆様・当会員を含む五十一名が結成四十周年記念奉告祭に参列され、境内にて記念撮影後、大宝殿にて記念式典が開催されました。その後の懇親会は、当時の思



拝殿前にて記念撮影（2月16日）

い出話やエピソードなどが語り合われ、始和やかな雰囲気となりました。

小國神社氏子青年会は、古来より伝承される十二段舞楽を奉奏奉仕する氏子地区の青年を中心に、神社を通じて相互の親睦と郷土の歴史と伝統に理解を深めると共に、精神的よりどころとさらなる奉仕活動を展開するべく、昭和四十八年に結成されました。

今後とも会員一人一人の生活の向上と、地域の繁栄と調和に貢献されるようたゆみない努力を続けられ、氏子青年会が後世に正しく継承されますことを念願いたします。



記念品目録の贈呈（2月16日）

第十二回「写真コンテスト」のご案内

恒例となりました当社主催の「写真コンテスト」が第十二回を迎えます。

テーマは、部門一「草花・自然」、部門二「祭事・催物」、部門三「野鳥」となります。撮影の対象期間は平成二十五年十一月より平成二十六年六月下旬で、ご応募は六月末日にて締切となります。

皆様方の多くのご応募をお待ちしております。尚、応募用紙は当社と県写真材料商組合中遠支部加盟店にて配布しております。詳しくは小國神社写真コンテスト係までお問い合わせください。

〇五三八（八九）七三〇二



第11回入選「アカウン」(鈴木勇陸夫氏撮影)

古代の森シリーズ 40

絵馬

絵馬は社寺に奉納される絵入りの額や板絵を指します。日本では古くから馬は神様の乗り物として考えられており、祈願や報謝の際には生きた馬を奉納していました。時代が下るにつれ、生きた馬の代用として土や木で出来た実物大の馬の像、更に簡略されて馬の絵が奉納されるようになり、これが今日の絵馬の由来となっています。

絵馬には馬の絵以外にもそれぞれの神様に縁のある縁起物や祈願内容に沿った絵が描かれており、当社の願掛け絵馬には御祭神の大國主命にちなみ、小槌の絵が描かれています。



森山焼・松井晴山氏奉納の「午」（1月1日）

まつり歳時記

三月〜六月

三月

弥生

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 十八日 真田城趾慰霊祭 (午前十時半)
- 十八日 鉾執社例祭 (午後一時半)
- 二十一日 春季皇霊祭遙拝式 (午前九時)

四月

卯月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 三日 神武天皇祭遙拝式 (午前九時)
- 五日 勸学祭 (午前十一時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 六日 一宮さくら祭 (午前十時)
- 八日 杉祭 (午前九時)
- 八日 全国一宮等合殿社例祭 (午前九時半)
- 十六日 垢離祭 (午前十一時)
- 十七日 献詠祭 (午前九時)
- 十七日 前日祭 (午前十時)
- 十七日 舞揃 (午後二時)
- 十八日 例祭 (午前十時)
- 十九日 氏子入り奉告祭 (午後二時)
- 十九日 十二段舞楽奉奏 (午後二時)
- 二十日 十二段舞楽奉奏 (午前十一時)
- 二十日 神幸祭 (午後二時)
- 二十日 献茶祭手揉み保存会 (午後四時)
- 二十三日 甲子祭 (午前九時)
- 二十九日 昭和祭 (午前九時)

五月

皐月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 五日 こども祭 (午前十時)
- 六日 本宮山青葉祭 (午前十一時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)

六月

水無月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 一日 花菖蒲園開園奉告祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 八日 花しょうぶまつり (午前十時半)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十日 御田植祭 (午前九時)
- 二十三日 甲子祭 (午前九時)
- 三十日 夏越の大祓式 (午後三時)



鳥居 禮画伯による「太平楽」が完成(12月12日)

平成二十六年例祭のご案内

来る四月十八日は、当社のご祭神「大己貴命」が本宮山に祀られ、十二段舞楽が奉奏された最も由緒のある日にあたり、例祭が斎行されます。

本年の日程は、十七日(木)に前日祭、十八日(金)に例祭、十九日(土)に氏子入り奉告祭、二十日(日)に神幸祭が斎行されます。

神幸祭の日には国指定重要無形民俗文化財の十二段舞楽が奉奏され、終了後には福引き入りの餅まきが行われます。また境内では新茶の手揉みの実演と茶娘による無料接待、弓道愛好会による大弓会が催され、甘酒の無料授与も実施されます。

是非とも当社のご縁日にご参拝いただきまして、大神様の一層のご神徳を賜りますようご案内申し上げます。



神幸祭の神輿渡御 (平成25年4月21日)

勸学祭・氏子入り奉告祭のご案内

勸学祭は四月五日(土)に十一時から斎行いたします。「勸学」とは、学問を勧め励ますことを意味します。

四月は新入学児童、学生、そして保護者の皆様にとっては、新しい環境への一歩を踏み出す大きな節目の時期となります。当社の勸学祭では、氏子地域内の小学校、中学校へ入学されたお子様の健康、学業成就、通学安全をご祈願いたします。

氏子入り奉告祭は四月十九日(土)午後二時から斎行いたします。

「氏子入り」とは今まで無事に生活ができたことを神々に感謝し、これから生活をする新たな土地でも変わらぬご加護を頂きますように祈る大切な儀式です。

本年は、平成二十五年四月一日から平成二十六年三月三十一日までにお生まれになられたお子様と嫁入り婚入りされた方、そして転入移住された方々にご参列を頂き当社の氏子に加わったことをご神前にご奉告申し上げます。家内安全、無病息災をご祈願いたします。

申し込み書は各地区の総代を通じてご連絡いたします。名簿に明記の上、当日ご家族の皆様と一緒にご参列下さいませますようご案内申し上げます。



ことまち池のみやまつじ (平成25年4月5日)

一宮さくら祭の開催

四月六日(日)、一宮さくら祭を開催いたします。さくら祭のメイン会場となる「小國ことまち横丁」前の駐車場にステージトラックを設け、午前十時より各種団体によりバンド演奏や詩吟など様々な演目が披露されます。そのほか、会場の一角にはご家族連れのお子様用の無料ゲームをご用意いたします。そして、終演を迎える午後四時にステージにおいて餅撒きを行います。

また、舞殿においては、琴と尺八の演奏が奉納され、優雅な音色が響き渡ります。参道には甘酒の接待や露店の出店もあり、終日多くの人で賑わいます。

境内各所で春の雰囲気をお楽しみいただけますので、皆様お誘い合わせの上、お越しくださいますようお願い申し上げます。



鳥居前の枝垂れ桜(平成25年3月29日)

本宮山青葉祭のご案内

五月六日(火)に本宮山山頂にて青葉祭が執り行われます。午前九時に当社より送迎バスが出発し、山頂下の駐車場よりは徒歩にて奥宮の奥磐戸神社まで登拝いたします。

午前十一時より祭典が斎行され、その後、青葉の息吹を感じながら昼食を頂きます。標高五五一メートルの山頂からは、新緑あふれる峰々をはじめ天竜川や遠く遠州灘まで見渡せます。是非皆様のご参列をお待ちしております。



本宮山青葉祭の修祓(平成25年5月6日)

命 名

平成二十五年十二月一日

平成二十六年二月二十八日

鈴木 莉瑠	袋井市	赤堀 陽翔	菊川市	○当社では、お子様の命名を申し受けております。
中嶋 莉菜	菊川市	松浦 美咲	袋井市	
戸田 怜穂	袋井市	鈴木 湊人	掛川市	
神谷 太陽	浜松市	井口 絢斗	浜松市	
山田 楓	袋井市	石黒日菜実	袋井市	
大嶋日麻俐	森町	高倉 乙粋	浜松市	
松島圭之介	袋井市	樽室 邑那	菊川市	
井川 唯	浜松市	御宿 咲那	浜松市	
高尾 悠馬	袋井市	竹内 悠馬	袋井市	
		山本 健人	森町	
		高塚 碧斗	菊川市	
		兼橋 諒汰	島田市	
		溝口 遥都	菊川市	
		渡辺 菜那	静岡市	
		佐藤 凱斗	静岡市	
		中野 悠麻	静岡市	
		山田 莉瑚	掛川市	
		石山昂志郎	掛川市	
		村松 拓	磐田市	
		山本 大喜	磐田市	
		山本 心晴	掛川市	
		安藤 樹	森町	

稚児行列奉仕者の募集

四月二十日(日)午後二時より神幸祭(おわたり)を斎行し、稚児行列を執り行います。つきましては、本年も行列に参加される稚児を募集しておりますので、ご希望の方は当社までご連絡ください。

電話 〇五三八一八九一七三〇二

振興会 稚児行列係

募集要項

- 一、対象者 小学校三年生位までの男女
- 一、参加費 五〇〇〇円
- 一、募集人員 若干名(先着順)
- 一、申込締切 三月二十九日(土)



舞楽行列(平成25年4月21日)

献詠祭の和歌募集

当社では、献詠祭で神前に奉納する和歌を募集しています。左記の要項にて多数ご応募くださいますようお願い申し上げます。

◆兼題 「歴史」「祈り」

◆用紙 短冊

◆裏面に住所氏名を明記下さい。(歌は楷書にてお書き下さい。)

◆献詠費 無料

◆締切 四月十四日(月)

◆宛 先 〒四三七七〇三二六

静岡周知郡森町二宮三九五六一
小國神社社務所 祭儀課献詠係



巫女舞の奉仕(平成25年4月21日)



第11回写真コンテスト入選「どんど焼きの朝」(岩本雅志氏)

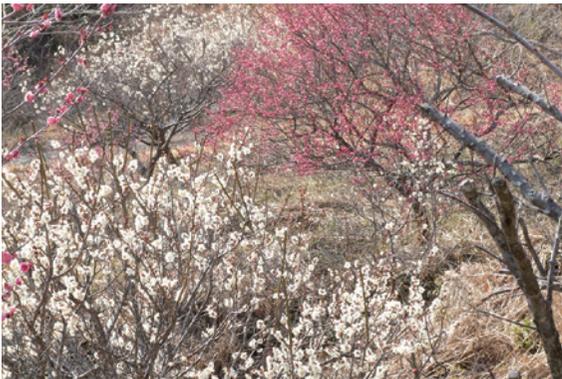


(株)久米吉奉納の車いす昇殿用のスロープ (2月25日)

「小國の杜」点描



岩手県神社庁・盛岡支部正式参拝 (平成25年7月27日)



宮ノ谷池・梅の開花 (2月25日)



平成26年3月29日(土)午後3時開通予定の「遠州森町スマートインターチェンジ」(当社まで約5分)

平成二十六年三月十五日
 「玉垂」(たまだれ) 第四十号
 題字揮毫 神社本廳元総長 工藤 伊豆
 発行 小國神社社務所
 郵便番号 四三七一〇二二六
 住所 静岡県周智郡森町一宮三九五六一
 電話番号 〇五三八(八九)七三〇二
 FAX 〇五三八(八九)七三六七
 印刷 (有)デザインオイス エムエスシー

平成二十六年二月三日(月)午後二時、節分祭齋行後に拝殿前にて撮影いたしました。
 一〇〇名の年男・年女役とともに俳優 寛利夫さんも奉仕され、色とりどりの大紋姿での華やかな一時となりました。

表紙写真について

境内の河津桜は満開となりました。いよいよ来月は例祭となります。関係各位のいつもながらの力強いご協力をお願いいたします。

○「玉垂」四十号をお届けいたします。年末から年始及び二月末迄の祭事・行事をご報告させて頂きました。今年は今のごとく主な祭典日には降雨がありませんでした。各地では記録的な大雪により被害がでていると報道されておりますが、心よりお見舞い申し上げますとともに速やかな復旧をお祈りいたします。

編集後記



縄巻修巳氏による尺八・笛奉納演奏(11月16日)